

serres



セレス吸引システム 病棟仕様のご紹介





キャニスタ

吸引バッグをセットするための
リユーザブル型キャニスタです。

★クリア（透明キャニスタ）

- ・ 1000ml（□型）
- ・ 2000ml（○型）
- ・ 3000ml（○型）

★ブルー（青色キャニスタ）

- ・ 1000ml（□型）
- ・ 2000ml（○型）

病棟では壁掛け時のスペース確保
を考慮し、□型がオススメです。

ブルーは廃液が患者様に見えない
よう配慮されたデザインです。

吸引バッグ



吸引バッグ（凝固剤入）



吸引バッグ

キャニスタに合わせてセットします。
各種仕様をお選びいただけます。

★吸引バッグ

- ・ 1000ml (□型)
- ・ 2000ml (○型)
- ・ 3000ml (○型)

★吸引バッグ（凝固材入）

- ・ 1000ml (□型)
- ・ 2000ml (○型)
- ・ 3000ml (○型)

クリア、ブルーどちらのキャニスタ
にも取付けが可能です。



HK-333

装着例



WS-1400

圧力調整器

壁吸引圧の調整を行います。

★HK-333

- ・スタンダードタイプ

★WS-1400

- ・シンプルなデザイン、高い視認性、病棟用コンパクトサイズ

汎用型HK-333は全て正面操作が出来るベーシックモデルです。

WS-1400は狭い壁吸引廻りでの取り回しを考慮したサイズです。ベッド側への出張りも最小限ですっきりと収まるため、余分なスペースが不要です。



凝固材入り吸引バッグ



凝固材スティックタイプ



Be-GEL150



凝固材ユニット

付属品

医療従事者の安全とウイルスや感染症対策として、凝固剤を推奨いたします。

★凝固材

- ・ 凝固材入り吸引バッグ
吸引バッグ内包型
- ・ 凝固材スティックタイプ
使用後投下型スティック
- ・ Be-GEL150
使用後任意量投下型
- ・ 凝固材ユニット
使用前装着型

セットアップ例

病棟用吸引システムの一例



壁吸引器（2タイプ）

バキュームフィルター（1タイプ）

吸引バッグ（8タイプ）

キャニスター（5タイプ）

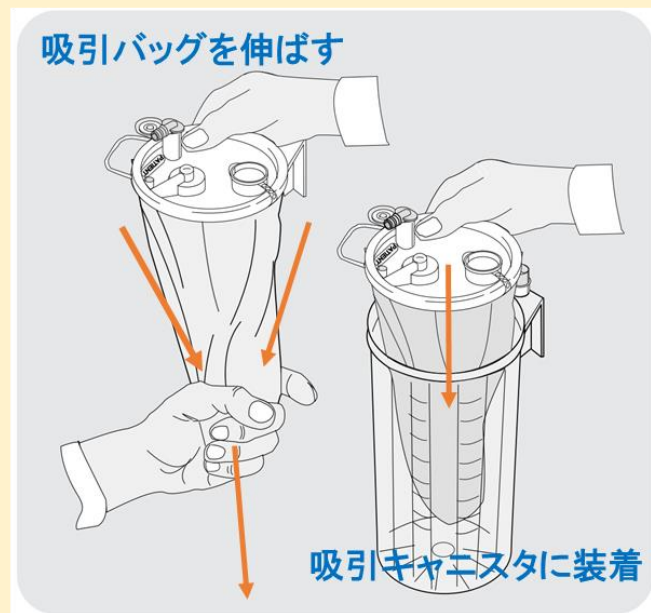
凝固剤（4タイプ）



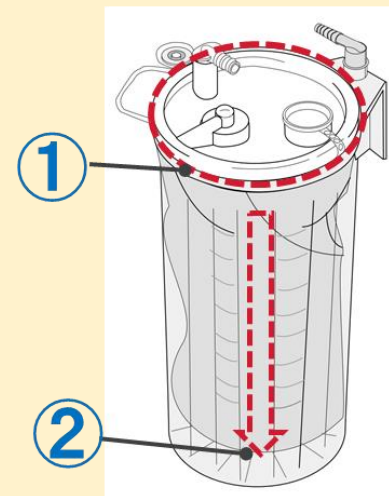
セレス吸引システム オーバーフロー対策

吸引バッグが破裂したり、吸引配管への排液流入を未然に防止するために、使用上の注意を遵守の上ご使用下さい。詳細は添付文書をご参照下さい。

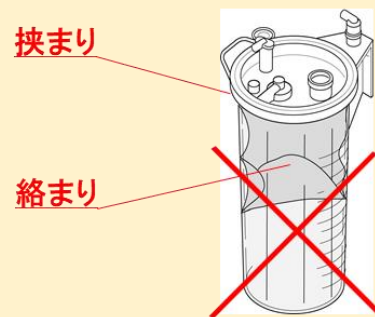
1. 吸引バッグは十分に伸ばして吸引キャニスタに装着してください



- check ① 上蓋にバッグが挟まっていないことを確認
② 十分にバッグが膨らんでいることを確認



吸引バッグが挟まっていたり絡まったりすると十分に膨らまず、キャニスタの中でバッグの一部が引き伸ばされ破裂(破れ)することがあります



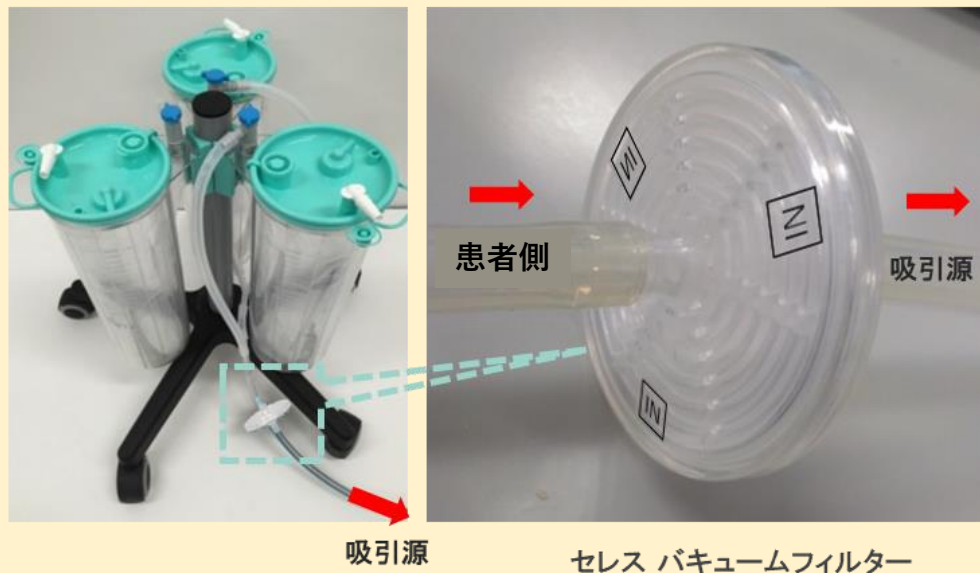
バッグが破裂(破れ)



ここから廃液が
キャニスタ内に
漏れ出す！

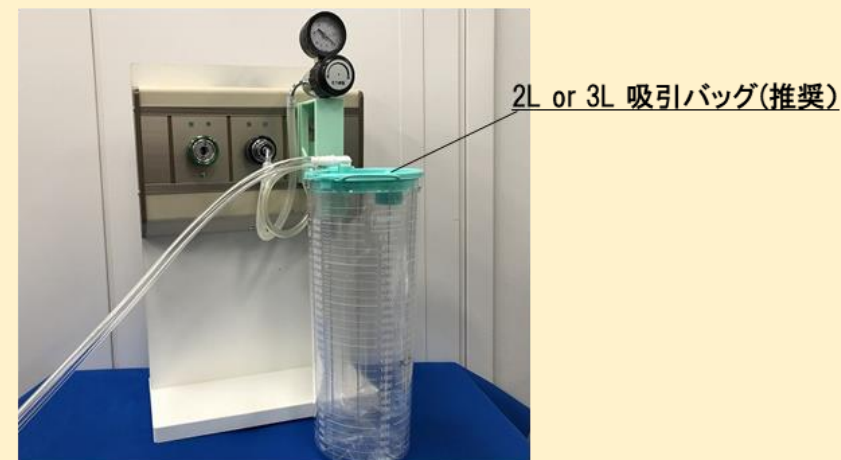
2. 吸引配管の保護対策を実施してください

疎水性PTFEフィルター対策



サージカルスモークの集塵に高い効果を発揮する他、疎水性能を生かしフィルター表面で液体を捉えます

補助バッグ対策



吸引配管の手前に予備の吸引バッグとして2L、3L(大容量を推奨)を設置し、廃液の一時貯留(避難)スペースを確保します

親水性フィルター対策

廃液接触によりフィルター素材が膨張し、物理的に廃液の流入を阻止します

3. 吸引に伴う配管への廃液流入防止について

吸引システムのメカニズム

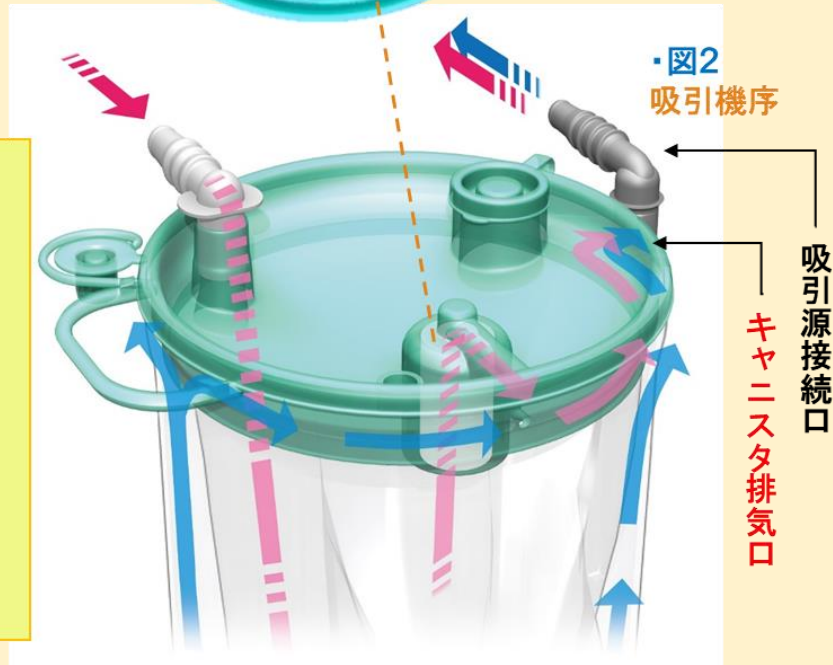
- ➡ 吸引バッグと吸引キャニスタ間の空気が、キャニスタを通じて吸引源側に排出されることで陰圧となり、吸引バッグが膨らむ
- ➡ 吸引バッグ内の空気は吸引バッグ排気口を経由しキャニスタ排気口から排出される

通常の吸引時(破裂無し)

図2のように、吸引バッグ内の空気は ➡ を通じて排気されます。また、吸引バッグ内蓋には「オーバーフローフィルター」(図1)が装着されており、廃液のオーバーフローを防止する構造になっています。

バッグが破裂(破れ)

吸引バッグが破裂すると廃液がキャニスタ内に漏れ出し、吸引バッグ内の空気と共に図2の「キャニスタ排気口」(通常は吸引バッグの外側にある空気だけを陰圧している)へ混入してしまいます。また、キャニスタ排気口にはフィルターが無い為、配管内へ廃液が流れ込んでしまっても止めることが出来ません。(対策 → 4. へ)



4. 配管への廃液流入を阻止するには...

1. 吸引バッグは十分に伸ばして吸引キャニスタに装着する！

- ★ 吸引バッグのソフトシート部をキャニスタ縁に挟んだままセッティングしたり、吸引バッグが絡まったままキャニスタに設置すると、使用中に吸引バッグが破裂する恐れがありますので、ご注意ください

2. オーバーフロー対策を実施する！

- ★ 「吸引源接続口」とチューブの間にフィルターを噛ませる、または予備の補助バッグを吸引配管の手前に設置することで、配管内への廃液流入を一定程度抑制できます

すべては、患者様と医療従事者様の安心のために...